

平成 26 年 2 月 3 日

南の風 55

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

ちょっと遅くなりましたがオールジャパンのゲームのことを書きます。

1 月 11 日に代々木第 1 体育館に行ってきました。オールジャパン男女の準決勝でした。

女子は富士通対トヨタ、JX 対三菱のゲームでした。トヨタと JX がかなりの差で勝ち、決勝に進みました。三菱のチームには、永田台ビーバース出身の関根麻衣子選手（14 番）がいますが、残念ながら出場はありませんでした。後半のレギュラーシーズンでの活躍を楽しみにしたいと思います。

さて、今回は男子準決勝のアイシン対トヨタのゲームを検証します。

ゲーム開始からアイシンのシュートが次々と決まる。3 番柏木、6 番比江島を中心に、中と外のバランスがよく大量リードとなる。トヨタはシュートの決定率が悪く、点が伸びない。2ピリの3分には、17 対 45 と 28 点差をつけられる。しかしその後トヨタは、21 番の竹内、3 番ギブスがインサイドで奮闘し徐々に盛り返す。13 点差に詰め後半に入る。後半に入ると、トヨタは 3 番ギブスが攻守で活躍し、じわじわ点差を縮めていく。最終ピリオド、16 番松井の 3P についてアイシンを捕えたトヨタは、ギブスのダンクも決まり逆転に成功。アイシンは攻めに躊躇する場面が目立ち、シュートとパスのバランスを欠きミスが続く。それでも 14 番金丸の 3P などで食らいつき、残り 1 分で 81 対 83 の 2 点差に詰める。しかし粘るアイシンの反撃もそこまで。トヨタが 89 対 83 で勝利し決勝にコマを進めた。

このゲームで感じたことを書きます。ピリオド制のことです。

結論から言うと、ピリオド制はゲームの流れが切れるということです。例えばこのゲームでは、アイシンの立ち上がりは申し分ありませんでした。シュートの決定率がよく、中と外のオフェンスバランスもたいへんよかったです。一方トヨタは、リングに嫌われシュートの確率が非常に悪かったです。2ピリになっても、アイシンの攻撃は続き 45 対 17 まで広がりました。ここでアイシンは控えの選手を投入します。するとリズムが一変し、じわじわトヨタが盛り返します。2ピリの残り 5 分で、アイシンは 4 点しか奪えず、13 点差まで詰め寄られることとなります。そして上記のように、3ピリから追い上げられ、結果敗れてしまいました。1ピリで、これ以上ない立ち上がりをしたアイシンは、2ピリに入り油断とはいかないまでも、オフェンスが雑になり、さらに控えの選手に交代することによってリズムが乱れたように感じました。トヨタは 13 点差に戻し、「いける」というムードになりました。3ピリに入ると、オフェンスの展開がギブスを中心に回りだし、最終ピリオド逆転に成功し、トヨタが見事逆転勝利をあげます。

攻撃のリズムというのは本当に微妙なものです。一つのミス、ちょっとした油断（このゲームにあったとは言い切れませんが）が流れを止めてしまう場合があります。ピリオド間、ハーフタイムは、いい流れも悪い流れも切るものだと、改めて感じました。

これは、ミニバスにも通じます。1 ゲームに少なくとも 10 人の選手が出場するミニバスでは、各 Q をどう戦うかがベンチワークの大きな課題でもあります。では、また次号で。